

# あいち農産物生産流通レポート

2023年8月号

	ページ
◎ 地域トピックス	
・「土田かぼちゃ」があいちの伝統野菜に選定されました	(尾張農林水産事務所) 1
・常滑市の養鶏農家(デイリーファーム)が農山漁村発イノベーション整備事業を活用して、ペーカリーを整備しました	(知多農林水産事務所) 2
◎ 東日本情報	
・横浜で「渥美半島たはらマルシェ」が開催されました	(東京事務所) 3
◎ 青果	
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	5
・名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し	6
◎ 花き	
・切花・鉢花の8月の見通し(県内市場)	18

※今月「情報サロン」、「西日本情報」、「フラワーページ」はありません。

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400



## 「土田かぼちゃ」があいちの伝統野菜に選定されました

尾張農林水産事務所

2002年から選定が始まった「あいちの伝統野菜」は、昭和30年頃には栽培されていたものの、地名や人名がついているなど本県に由来しているもの等の条件に合致した野菜です。2022年度、清須市で栽培されている「土田かぼちゃ」が新たに選定されました。

### 1 「土田かぼちゃ」とは

日本かぼちゃの品種で、明治時代には清須市土田地区で栽培されていました。1玉2kg前後と大きめで、オレンジと黒緑が混じったインパクトのある果皮が特徴です。西洋かぼちゃに比べ甘味は控えめで皮は硬く、果肉は繊維質で水分が多いため、ねっとりとした食感です。

高級食材として料亭などに販売されていましたが、昭和30年代以降、西洋かぼちゃが普及するにつれ、日本かぼちゃの生産が減り、一旦市場から姿を消しました。2007年、土田かぼちゃの種子を保存している農家が見つかり、その種を活用して再び栽培が始まりました。



果実



栽培風景

### 2 おいしい食べ方

#### (1) おすすめの料理方法

淡白な味わいのため、他の食材と組み合わせるとおいしいです。

わたを取り除き、皮を厚くむきます。一口大に切って出汁とともに煮つけ、黒砂糖、しょうゆ等で味を調えます。

#### (2) 新しい食べ方への挑戦

清須市特産物振興委員会では、市内の和菓子屋、喫茶店、パン屋等の協力を得て、土田かぼちゃの新しいレシピを紹介しています。清須市観光協会は、ペースト状に加工したものを原料にしたアイスクリームを販売しています。また、新商品としてポタージュ、カタラーナが冷凍で販売されています。

清須市を訪れた際は、土田かぼちゃの新しい食べ方に挑戦してみたいかがでしょうか。



土田かぼちゃのアイスクリーム

【参考：清須市観光協会（清須おみやげセレクション）】

<https://kiyosu-kanko.org/souvenir/>

## 常滑市の養鶏農家（デイリーファーム）が農山漁村発イノベーション整備事業を活用して、ベーカリーを整備しました

知多農林水産事務所

株式会社デイリーファーム（本社：常滑市）は、現在約 16 万羽飼養し、1 日約 12 万個、年間 2,800 トンの卵を生産する養鶏農家です。

常滑市大谷の「ココテラスの丘」に 6 次産業化事業で、2014 年にとれたたまごの店「ココテラス」、2017 年にたまご農家のキッチン「レシピラ」、2022 年度はベーカリー「にわのパン」を整備しました。



ベーカリー「にわのパン」の外観

### 1 ベーカリー「にわのパン」の整備目的

1 つ目は、規格外の卵をパンの原材料として使用し、卵の価値を落とさず活用できることです。2 つ目は、パンは卵と相性がよく、日常的に食べられる物であることから、新たな客層の確保と既存客のリピート回数の増加による相乗効果で、「ココテラスの丘」への来店頻度を高め、観光誘客数を増加させ、地域活性化を図ることで。

また、施設全体の新規雇用の増加も見込めるとともに、常滑市の観光地としての情報発信、交流拠点としての役割も期待されています。



ベーカリーの店舗内

### 2 ベーカリー「にわのパン」のメニュー

東京のパン屋「365 日」で修行したベーカリープロデューサーとともに、地元食材にこだわったパンメニューの開発を進めました。

自社卵を使った厚焼きたまごバーガー、たまご農家のプリンパン、目玉焼きバーガー、たまごサンドや、地元野菜を使った農家のキッシュ、知多半島のしらすを使ったじゃこパンなど、地産地消を意識したパンを 22 種類販売しています。



パンのラインナップ

### 3 農山漁村発イノベーション整備事業について

農山漁村発イノベーション整備事業（産業支援型）は農林漁業者等が多様な事業者とネットワークを構築し、制度資金等の融資又は出資を活用して 6 次産業化に取り組む場合必要になる、農産物加工・販売施設等の整備に対する補助事業です。

## 横浜で「渥美半島たはらマルシェ」が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

7月6日の「渥美半島田原市メロンの日」にちなみ、2023年7月6日（木）と7日（金）の2日間、神奈川県横浜市内で「渥美半島たはらマルシェ」が開催されましたので、その概要をお伝えします。

### 1 マルシェの概要

「渥美半島たはらマルシェ」はシティセールス※の一環として開催されました。会場は神奈川県横浜市にある横浜S Tビル1階の建物内の通路で、7月6日の「渥美半島田原市メロンの日」にちなんで開催は、昨年7月に続き2回目となります。

横浜市内でのマルシェ開催は、会場のビルに入居している会社の社長が7年ほど前から田原市のふるさと大使を務めているご縁で実現したそうです。マルシェでは、田原市の特産品としてメロン、トウモロコシ、あさりせんべい、田原市の地域資源や地域特性を生かした優れた産品を市が認定する「渥美半島たはらブランド」の加工品等の販売が行われ、田原市の道の駅駅長1名と市職員6名が担当していました。



マルシェの様子

※シティセールス＝自治体がまちの特色や魅力などを市内外に宣伝し、売り込むことによって人や企業に関心を持ってもらい、知名度やイメージを上げていくこと。

### 2 販売状況について

マルシェの案内は、ビル管理会社が18階建てビルに入居している全社に、田原市のふるさと大使を務める社長が各方面に行った効果もあり、取材した7月6日はひっきりなしに買物客が訪れていました。

販売されていたメロンの品種はアールスメロン、レノン、タカミで、販売量の割合は3：4：3でした。販売量は2日分として計600玉でしたが、1日分の販売数は設定せず、2日目の途中でも売り切れ次第終了とのことでした。販売時には、食べ頃の時期や、田原市ではタカミが好きな人が多い等の説明が行われていました。



販売されていたメロン

マルシェは関東圏における田原市の認知度向上の効果が高いことから、来年3月には同会場において田原市産の野菜を中心としたマルシェの開催が予定されているそうです。



## コラム 「メロンの日」について

田原市では、メロンの最盛期である7月の中で6日を「渥美半島田原市メロンの日」と制定しています。これは2016年に茨城県で開催された「第2回全国メロンサミット」において毎月6日をメロンの日と制定したことが理由です。

6日がメロンの日とされた理由は、①6という形がメロンのつると果実本体に似ているため、②メロンの食べ頃が概ね収穫後6日目であることを消費者に伝えるため、とのことです。



※画像は「渥美半島観光ビューロー」のウェブサイト上の記事『7月6日は「渥美半島田原市メロンの日」！』(<https://www.taharakankou.gr.jp/event/000245.html>)より引用。

## 愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下  
 わずか : ± 2 % 台以内  
 や や : ± 3 ~ 5 % 台  
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台  
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

### ○ 名古屋中央卸売市場（品目：巨峰）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛 知 産	前年主要産地 (上位3産地)
	2022年実績	537	58 (11%)	1,359	1,244
2023年見通し	550	—	1,300	—	
<b>概要と見通し</b>			<b>卸売市場から産地への要望・提言等</b>		
巨峰の作付は昨年と同等だが、主力のシャインマスカットの流通が多いため、昨年より単価は落ち着くか。生育は順調で、粒は大きい傾向。また、高温による着色不良が懸念される。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。			新型コロナが5類感染症に移行し、業務用需要も徐々に回復してきている。シャインマスカットの割合が高い中、バラエティ豊かな品種構成となるよう様々な品種の栽培をお願いしたい。 長年の栽培技術をもって、引き続き品質のよい巨峰づくりをお願いしたい。		

### ○ 東京都中央卸売市場（品目：いちじく）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛 知 産	前年主要産地 (上位3産地)
	2021年実績	836	366 (44%)	1,087	1,243
2022年見通し	840	—	1,090	—	
<b>概要と見通し</b>			<b>卸売市場から産地への要望・提言等</b>		
愛知を中心に和歌山、静岡、福岡などからの入荷となる。前年は前進傾向で旧盆にピークを迎え、8月後半からは高温や台風の影響により小玉傾向で推移した。 今年は、ハウスのスタート時の出荷量は前年より多く、単価高で推移した。露地は生育に影響は見られず、7月下旬から入荷が始まり盆明けにピークとなる見込み。高温の影響など天候次第ではあるが、入荷量、価格ともに前年並の見込み。			愛知県産は入荷量が多く品質も良いため、量販店から支持されている。商品特性として過熟や裂果といった傷みがやすく、品質管理が特に重要であるため、検品をしっかり行い品質の維持を図るとともに、等階級別選果の徹底に努めてほしい。 いちじくは京浜地区でも夏から秋の果物として定着している。生産者の高齢化等により生産規模が縮小傾向であるが、産地の維持・拡大をお願いしたい。		

名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し

名古屋市中央卸売市場

7月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜	2018年	30,738	265	264	271	265	北海道 34%
	2019年	33,761	221	218	232	217	長野 26%
	2020年	33,430	274	306	277	245	群馬 10%
	2021年	34,512	215	196	202	241	岐阜 5%
	2022年	31,944	237	227	247	239	青森 4%
	5カ年平均	32,877	242	—	—	—	
	2023年見通し	32,900	223	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>北海道、長野を中心に入荷する。北海道は生育順調で、出荷安定している。長雨、高温によって出荷量も大きく変わる可能性がある。また、一部の品目では、気温が高く、消費が鈍くなる見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						
だいこん	2018年	1,634	113	131	122	105	北海道 47%
	2019年	1,538	97	85	125	99	青森 38%
	2020年	1,474	116	110	118	123	岐阜 14%
	2021年	1,674	92	83	102	98	長野 1%
	2022年	1,370	141	151	151	128	
	5カ年平均	1,538	111	111	123	110	
	2023年見通し	1,450	95	90	95	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>北海道、青森を中心に入荷する。北海道の入荷は昨年と比べて安定しており、青森は昨年より数量増加見込み。夏場のため消費は鈍いが、面積の減少や輸送の問題で出荷が不安定となる見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>						
にんじん	2018年	2,198	71	58	69	86	北海道 97%
	2019年	1,967	139	129	132	149	青森 2%
	2020年	2,369	154	195	139	126	
	2021年	2,114	133	123	133	142	
	2022年	1,734	147	136	139	172	
	5カ年平均	2,076	128	129	122	133	
	2023年見通し	1,920	130	120	130	140	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>北海道を中心に入荷する。北海道は生育良好で昨年を上回る入荷を見込む。昨年より数量が増加し、品質も安定する見通し。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						



注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。  
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

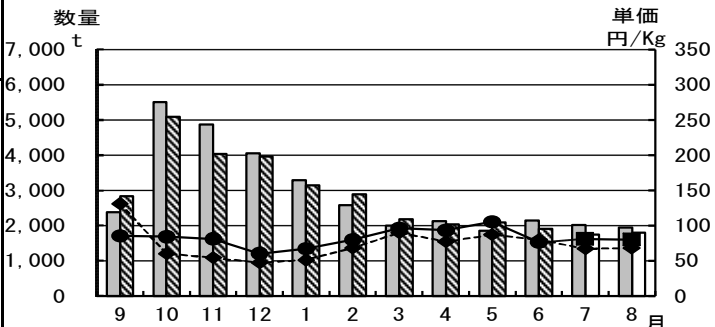
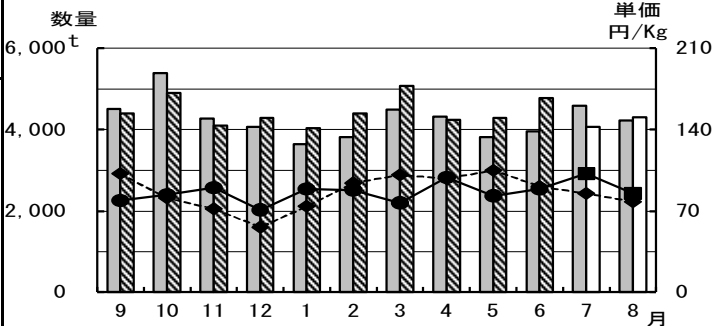
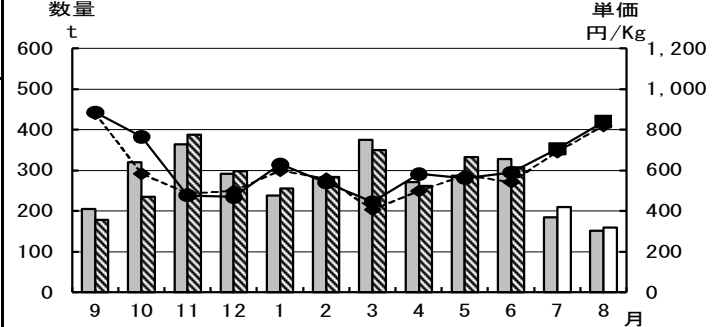
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜	2018年	118,693	290	295	287	北海道	25%
	2019年	126,330	240	246	245	群馬	18%
	2020年	118,714	308	318	276	長野	17%
	2021年	117,932	242	233	271	茨城	7%
	2022年	113,024	259	262	258	福島	5%
	5カ年平均	118,939	268	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2023年見通し	118,000	260	—	—		
計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<b>【産地状況】</b> 北海道産のにんじん、ばれいしょ、たまねぎの入荷が本格化。レタス、なす、トマトは高温の影響が懸念される。 <b>【概況見通し】</b> 入荷量：前年をやや上回る。(＋4.4%) 価格：前年並。(＋0.4%)						
だいこん	2018年	8,017	116	125	104	北海道	68%
	2019年	8,236	95	79	114	青森	22%
	2020年	7,675	115	107	115	群馬	4%
	2021年	7,330	93	83	102	神奈川	3%
	2022年	6,793	138	151	131	岩手	3%
	5カ年平均	7,610	111	108	117	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2023年見通し	6,800	120	125	110		
計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<b>【産地状況】</b> 主要産地の北海道と青森は、生育は順調であるが、長雨の影響で上中旬の入荷量は少なめと見込まれる。 <b>【概況見通し】</b> 入荷量：前年並。(＋0.1%) 価格：前年をかなり下回る。(▲13.0%)						
にんじん	2018年	6,478	137	129	139	北海道	93%
	2019年	7,215	89	84	82	青森	4%
	2020年	6,983	156	213	146	中国	2%
	2021年	6,330	132	122	127		
	2022年	5,670	144	137	138		
	5カ年平均	6,535	131	137	125	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2023年見通し	6,400	135	130	145		
計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<b>【産地状況】</b> 主要産地は北海道で、潤沢な入荷量が見込まれる。生育は概ね順調。 <b>【概況見通し】</b> 入荷量：前年をかなり上回る。(＋12.9%) 価格：前年をかなり下回る。(▲6.3%)						

名古屋市中央卸売市場

7月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2018年	1,636	86	56	82	115	長野 99%
	2019年	1,524	122	158	105	107	兵庫 1%
	2020年	1,519	154	158	169	139	
	2021年	2,049	84	68	75	104	
	2022年	1,940	68	62	70	75	
	5ヵ年平均	1,734	100	96	97	106	
	2023年見通し	1,800	80	80	80	80	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
い	<p>長野からほぼ全量を入荷する。8月期においては、上旬については適正生産ということもありやや作付け減少見込み。 突発的な天候不順がなければ、盆明け以降は荷動き良くなる予想。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>						
キヤベツ	2018年	4,289	89	71	97	100	群馬 67%
	2019年	4,322	100	114	108	91	長野 26%
	2020年	3,535	151	146	154	157	北海道 7%
	2021年	4,809	79	78	81	81	岩手 1%
	2022年	4,223	78	79	82	77	
	5ヵ年平均	4,235	97	95	102	99	
	2023年見通し	4,300	85	85	85	85	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
べ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
ツ	<p>群馬を中心に長野、北海道などから入荷する。群馬と長野は生育良好で、出荷のピークに入り、順調な入荷を見込む。7月は小玉傾向だったが、徐々に大きくなる見込み。 入荷量は前年並で、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>						
ほうれんそう	2018年	137	806	778	869	809	岐阜 92%
	2019年	137	853	848	846	886	長野 3%
	2020年	179	799	842	779	810	茨城 1%
	2021年	187	771	677	747	958	愛知 1%
	2022年	152	821	732	868	986	静岡 1%
	5ヵ年平均	158	807	772	816	892	
	2023年見通し	160	840	800	840	880	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
そ	<p>岐阜を中心に、一部長野や茨城などから入荷する。7月の高温多湿の影響が出る可能性が高く、出荷量が不安定となる見通し。 高温期に入り、播種後の生育不良になりやすい予想。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>						
う							

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

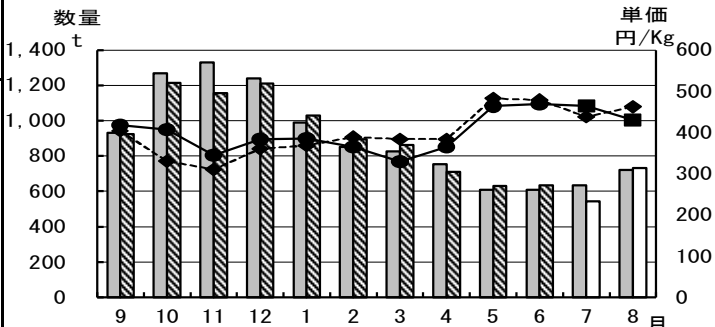
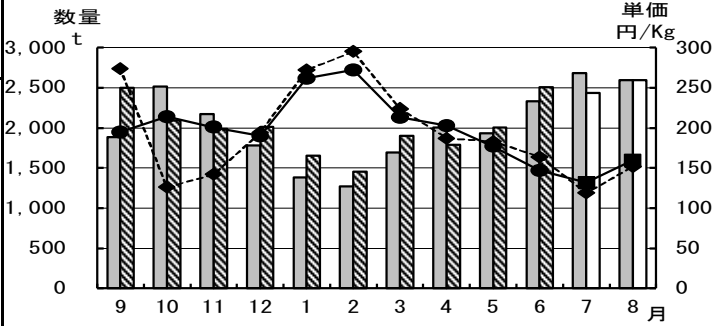
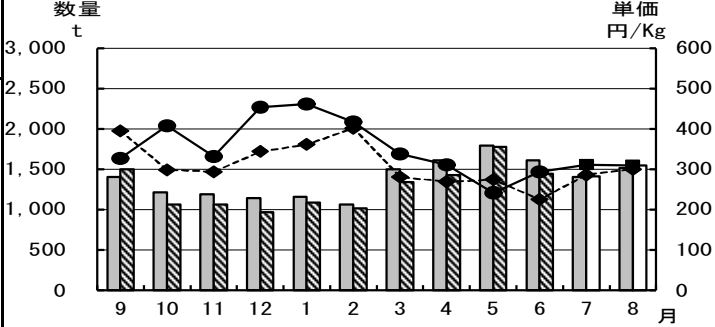
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2018年	7, 209	126	164	111	106	長野 96%
	2019年	7, 263	86	74	74	105	群馬 2%
	2020年	5, 555	171	164	205	142	北海道 1%
	2021年	7, 258	82	63	69	103	茨城 1%
	2022年	6, 276	59	54	59	64	
	5ヵ年平均	6, 712	103	102	100	103	
	2023年見通し	6, 300	60	50	60	70	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 主要産地は長野となるが、高温・干ばつの影響で生育に停滞がみられ、前年並の入荷量が見込まれる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。 (+0.4%) 価格：前年並。 (+1.7%)</p>					
キャベツ	2018年	17, 527	100	117	103	83	群馬 80%
	2019年	16, 671	100	86	113	104	岩手 11%
	2020年	15, 510	166	152	176	168	長野 7%
	2021年	16, 714	74	73	77	74	北海道 1%
	2022年	16, 898	69	68	72	66	千葉 1%
	5ヵ年平均	16, 664	101	99	107	98	
	2023年見通し	16, 700	70	60	75	75	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 主要産地は群馬、岩手で、潤沢な入荷量が見込まれる。8月は群馬がピークとなる。両産地ともに生育順調。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。 (▲1.2%) 価格：前年並。 (+1.4%)</p>					
ほうれんそう	2018年	662	826	799	835	843	群馬 35%
	2019年	576	903	735	1,011	1,011	栃木 31%
	2020年	678	828	830	816	838	茨城 13%
	2021年	704	782	621	764	955	岐阜 8%
	2022年	643	850	731	895	952	岩手 5%
	5ヵ年平均	653	835	742	859	917	
	2023年見通し	650	840	820	880	820	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 主要産地は群馬、栃木となる。生育は順調であるが、7月からの高温が続く予想のため入荷量の減少が懸念される。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。 (+1.1%) 価格：前年並。 (▲1.2%)</p>					

名古屋市中央卸売市場

7月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	697	445	401	488	461	北海道 41%
	2019年	608	526	509	550	530	長野 19%
	2020年	726	511	605	544	424	茨城 7%
	2021年	729	394	355	397	428	愛知 5%
	2022年	720	462	423	513	465	大府 5%
	5ヵ年平均 2023年見通し	696 730	466 430	457 420	497 430	459 440	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、長野、茨城などから入荷する。各産地、平年並の出荷予想。北海道、長野は夏秋産地が始まる見込み。白ねぎについては、長野産、富山産も出揃い、増量傾向で、旧盆明けから売り場拡大見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
しそ	2018年	2,686	166	139	151	200	長野 99%
	2019年	2,762	161	170	143	168	愛知 1%
	2020年	2,330	244	327	258	184	
	2021年	2,579	164	129	137	226	
	2022年	2,597	152	142	160	159	
	5ヵ年平均 2023年見通し	2,591 2,600	176 160	178 140	168 160	187 170	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野からほぼ全量を入荷する。生育順調で、作付自体は順調になされているが、降雨や高温の影響で傷みの発生が懸念される。また、高冷地は中下旬にかけ、気温下がり減少する見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
きゅうり	2018年	1,479	313	253	305	370	長野 57%
	2019年	1,438	403	337	423	449	北海道 24%
	2020年	1,742	401	405	393	405	山形 5%
	2021年	1,560	288	169	268	474	山梨 5%
	2022年	1,516	300	263	304	337	秋田 3%
	5ヵ年平均 2023年見通し	1,547 1,550	342 310	288 280	339 300	407 350	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に北海道などから入荷する。作柄は良好だが、雲雨天が続いている中で、不安定な出荷が続いている。お盆明けは各産地で入荷減少予想。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	4, 2 4 1	4 6 6	441	547	439	茨城 29%
	2019年	4, 6 1 2	3 5 8	323	430	346	秋田 17%
	2020年	4, 3 9 3	4 4 2	522	505	343	北海道 12%
	2021年	3, 8 5 2	3 6 8	315	438	361	青森 11%
	2022年	3, 7 5 2	4 7 9	425	565	472	千葉 5%
	5カ年平均	4, 1 7 0	4 2 1	406	495	390	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	4, 0 0 0	3 6 0	320	440	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<b>【産地状況】</b> 主要産地は茨城、秋田、北海道となる。各産地とも生育は概ね順調。月後半には茨城産が減少していく。 <b>【概況見通し】</b> 入荷量：前年をかなり上回る。 (+6.6%) 価格：前年を大幅に下回る。 (▲24.8%)							
しめじ	2018年	9, 7 6 4	1 5 3	157	134	164	長野 90%
	2019年	9, 7 5 9	1 7 6	157	214	164	群馬 9%
	2020年	7, 2 4 7	2 7 4	422	298	172	岩手 1%
	2021年	9, 2 4 8	1 7 3	128	128	261	
	2022年	9, 8 1 8	1 4 4	128	148	158	
	5カ年平均	9, 1 6 7	1 7 9	187	179	184	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	9, 2 0 0	1 4 0	150	150	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<b>【産地状況】</b> 主要産地の長野は、生育への高温の影響が懸念されるが、安定した入荷が見込まれる。 <b>【概況見通し】</b> 入荷量：前年をかなり下回る。 (▲6.3%) 価格：前年をわずかに下回る。 (▲2.8%)							
きゅうり	2018年	7, 6 0 5	3 7 4	303	400	413	福島 46%
	2019年	8, 3 7 5	2 7 7	209	267	362	岩手 18%
	2020年	8, 6 6 0	3 7 1	377	369	369	秋田 10%
	2021年	7, 9 4 3	3 0 5	160	310	457	山形 5%
	2022年	7, 7 2 8	2 8 3	254	279	318	群馬 5%
	5カ年平均	8, 0 6 2	3 2 2	262	325	383	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	7, 9 0 0	3 1 0	270	330	330	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<b>【産地状況】</b> 主要産地は福島、岩手となる。両産地とも生育順調。7月下旬から出荷ピークを迎え、十分な入荷量が見込まれる。 <b>【概況見通し】</b> 入荷量：前年をわずかに上回る。 (+2.2%) 価格：前年をかなり上回る。 (+9.5%)							

名古屋市中央卸売市場

7月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
なす	2018年	955	285	287	276	292	愛知 32%
	2019年	964	306	350	277	296	山梨 27%
	2020年	897	399	477	418	327	徳島 20%
	2021年	752	339	297	324	393	長野 5%
	2022年	845	286	295	283	280	群馬 5%
	5カ年平均 2023年見通し	883 860	322 305	343 295	315 300	315 320	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、山梨、徳島などから入荷する。愛知産は6月の台風、大雨の影響で後半は減少が見込まれる。宮崎産が7月でほぼ終了し、愛知中心の販売となる。盆前に向け数量不足で品薄が出てくるため相場も上がる予想。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
トマト	2018年	1,580	351	295	318	433	岐阜 68%
	2019年	1,501	437	378	422	512	北海道 13%
	2020年	1,673	373	363	366	391	愛知 11%
	2021年	1,755	327	268	281	428	大分 3%
	2022年	1,769	382	349	373	432	長野 3%
	5カ年平均 2023年見通し	1,656 1,700	373 350	330 350	350 300	438 400	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜を中心に北海道、愛知などから入荷する。各産地、作柄良好で、岐阜を中心に8月上旬から中玉が出て出荷ピークの見込み。天候にもよるが、8月20日以降は夜温の低下及び7月の降雨による花落ちから各産地減少へ転じる見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ミニトマト	2018年	576	653	556	608	767	北海道 72%
	2019年	498	902	823	851	1,009	長野 11%
	2020年	668	690	783	717	606	茨城 5%
	2021年	638	579	493	488	740	愛知 3%
	2022年	571	755	706	756	788	青森 3%
	5カ年平均 2023年見通し	590 600	707 700	668 660	676 680	770 760	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に長野、茨城などから入荷する。長雨、高温によって出荷量が大きく変わるが生育は順調な見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					



東京都中央卸売市場

7月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2018年	5,024	308	326	273	320	群馬 39%
	2019年	4,964	300	326	275	298	栃木 23%
	2020年	4,613	380	502	424	285	茨城 23%
	2021年	4,414	309	277	308	334	埼玉 3%
	2022年	4,513	272	260	267	290	岩手 3%
	5カ年平均	4,706	314	339	308	305	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	4,400	310	290	320	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 主要産地は群馬、栃木、茨城となる。一部産地で高温による花落ちが見られたものの、安定した入荷が見込まれる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(▲2.5%) 価格：前年をかなり上回る。(＋14.0%)</p>					
ト マ ト	2018年	7,464	440	363	445	508	北海道 23%
	2019年	9,433	245	233	221	285	福島 18%
	2020年	8,654	348	348	325	372	群馬 12%
	2021年	8,199	314	252	276	407	青森 11%
	2022年	7,429	401	375	378	459	岩手 9%
	5カ年平均	8,236	344	310	323	399	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	8,100	350	300	350	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 主要産地は北海道、福島、群馬等となる。大玉傾向であるが、旧盆以降はサイズダウンして箱数が減少する見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をかなり上回る。(＋9.0%) 価格：前年をかなり下回る。(▲12.7%)</p>					
ニ ン ジ ン	2018年	1,633	892	769	854	1,020	北海道 39%
	2019年	2,503	464	526	414	451	青森 19%
	2020年	2,282	663	716	702	595	岩手 10%
	2021年	2,211	579	484	515	735	千葉 9%
	2022年	2,038	728	680	741	769	福島 7%
	5カ年平均	2,133	646	625	626	689	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,100	740	700	700	820	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>【産地状況】 主要産地は北海道、青森等となる。夏秋作は上中旬がピーク、下旬は減少するも抑制作が徐々に増量の見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(＋3.0%) 価格：前年並。(＋1.6%)</p>					

名古屋市中央卸売市場

7月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	392	403	387	427	461	北海道 34%
	2019年	380	596	564	580	606	岩手 20%
	2020年	531	513	619	489	454	青森 14%
	2021年	547	322	306	273	427	宮崎 12%
	2022年	473	428	434	485	452	長野 12%
	5ヵ年平均	465	446	459	442	473	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	450	400	420	400	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、岩手を中心に青森などからも入荷する。北海道は若干遅れ気味で、東北も天候不順により遅れ気味となる見込み。お盆に向けて各産地ピークを迎え、下旬も引き続き安定した出荷となる見通し。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
ばれいしよ	2018年	2,167	117	114	114	123	北海道 85%
	2019年	2,080	115	103	119	131	静岡 7%
	2020年	2,713	168	247	155	119	青森 5%
	2021年	2,240	157	136	148	175	愛知 1%
	2022年	2,038	145	145	142	150	茨城 1%
	5ヵ年平均	2,248	142	154	137	139	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,240	145	170	140	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に静岡、青森などから入荷する。北海道は8月上旬より早出し産地が出揃い、中下旬に向け増加予想。静岡産は前年より数量少なく、8月は契約出荷のみの見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年並の見込み。</p>					
たまねぎ	2018年	4,084	84	90	87	81	北海道 73%
	2019年	4,651	107	108	111	106	兵庫 16%
	2020年	6,168	103	132	104	82	富山 3%
	2021年	5,780	98	104	95	96	愛媛 2%
	2022年	4,892	136	142	144	122	福井 2%
	5ヵ年平均	5,115	106	117	108	97	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	5,200	105	120	105	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、兵庫を中心に入荷する。淡路は盆前でほぼ終了し、北海道は上旬から出荷が始まる予想。北海道は生育順調でL大、L中中心となる見込み。収穫期に降雨が多くなければ順調な出荷予想。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

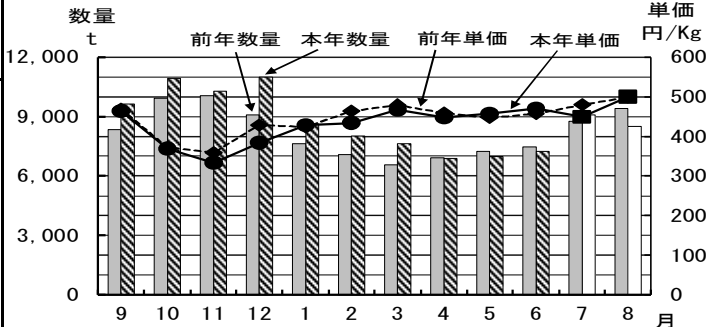
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	1,947	545	561	573	517	岩手 50%
	2019年	2,180	376	374	347	399	茨城 21%
	2020年	2,543	468	667	422	392	福島 17%
	2021年	2,419	304	261	243	411	青森 8%
	2022年	2,242	398	390	449	364	千葉 1%
	5カ年平均	2,266	415	451	401	413	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,300	370	400	400	310	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 主要産地は岩手、茨城、福島となる。各産地とも生育順調。上中旬に東北産がピークとなる。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(＋2.6%) 価格：前年をかなり下回る。(▲7.0%)							
ばれいしょ	2018年	5,139	117	91	117	132	北海道 73%
	2019年	6,104	124	142	123	111	茨城 12%
	2020年	7,071	166	267	162	122	千葉 5%
	2021年	5,052	161	131	153	185	青森 5%
	2022年	4,592	142	124	146	154	長崎 2%
	5カ年平均	5,592	143	159	141	138	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	4,800	140	130	130	160	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 主要産地は北海道となる。玉のサイズはL中心、続いてLMとなる。安定した入荷が見込まれる。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(＋4.5%) 価格：前年並。(▲1.4%)							
たまねぎ	2018年	9,933	112	118	114	106	北海道 81%
	2019年	9,221	88	92	88	84	兵庫 10%
	2020年	9,719	116	144	116	92	富山 2%
	2021年	10,729	102	106	103	98	中国 2%
	2022年	9,087	137	167	131	120	佐賀 2%
	5カ年平均	9,738	111	125	110	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	9,600	110	100	100	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 主要産地は北海道となる。生育順調で、8月初旬からの入荷が見込まれる。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(＋5.6%) 価格：前年を大幅に下回る。(▲19.7%)							

名古屋市中央卸売市場

7月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	9,006	430	443	414	430	長野 25%
	2019年	8,607	434	428	431	453	フィリピン 18%
	2020年	7,691	510	495	526	536	山形 13%
	2021年	8,328	501	518	495	497	愛知 8%
	2022年	9,401	499	537	478	477	山梨 7%
	5ヵ年平均 2023年見通し	8,607 8,500	474 500	— —	— —	— —	— —
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	ぶどう、なし、ももなどを中心に入荷する。全体的に前進出荷となる見込み。ぶどうは、大房傾向で、シャインマスカットの比率が増加する予想。ももは、長野産が凍霜害の為数量減少見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並の見込み。						
アールスメロン	2018年	226	556	—	—	—	愛知 60%
	2019年	207	605	—	—	—	静岡 23%
	2020年	186	636	—	—	—	茨城 15%
	2021年	237	527	—	—	—	山形 1%
	2022年	204	617	—	—	—	高知 1%
	5ヵ年平均 2023年見通し	212 200	585 720	— —	— —	— —	— —
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知を中心に静岡、茨城などから入荷する。旧盆に向けて発注が上がるが、単価も上がり注文は少ない見込み。静岡産、愛知産ともに8月15日頃まで入荷し、8月15日過ぎからは山形産が始まる見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年を大幅に上回る見込み。						
すいか	2018年	2,135	186	186	191	183	山形 44%
	2019年	2,284	170	163	181	178	長野 39%
	2020年	1,669	221	195	239	304	青森 7%
	2021年	1,736	215	231	225	178	石川 3%
	2022年	2,128	226	241	234	183	秋田 3%
	5ヵ年平均 2023年見通し	1,990 2,000	202 210	202 230	212 220	201 180	— —
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	山形、長野を中心に青森などからも入荷する。山形、長野の作付面積は、昨年並または微増で、8月上旬にかけて出荷のピークを迎える見込み。青森は上旬から入荷見込み。 入荷量、価格ともに前年をかなり下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	35,342	436	427	436	448	山形 20%
	2019年	35,795	432	407	431	470	山梨 12%
	2020年	28,903	557	492	566	622	長野 10%
	2021年	31,441	546	531	569	544	福島 9%
	2022年	32,502	557	554	574	546	青森 7%
果	5ヵ年平均	32,797	502	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
果	2023年見通し	31,500	550	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 なし、もも、ぶどうを中心に入荷する。ハウスみかんは主力の佐賀が大玉傾向。旧盆の需要があり相場は強くなる見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。 価格：前年並。</p>						
アールスメロン	2018年	635	571	549	708	525	静岡 32%
	2019年	565	643	593	758	635	茨城 29%
	2020年	516	737	632	846	755	青森 17%
	2021年	650	591	656	670	485	愛知 11%
	2022年	556	726	736	822	637	山形 6%
アールスメロン	5ヵ年平均	584	648	632	755	599	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
アールスメロン	2023年見通し	560	730	650	830	500	
アールスメロン	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 静岡、茨城、青森を中心に入荷する。静岡、茨城は高温の影響で品質低下が懸念される。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。 価格：前年並。</p>						
すいか	2018年	7,936	190	179	193	223	山形 50%
	2019年	9,732	179	170	185	200	長野 14%
	2020年	6,261	264	209	281	438	秋田 13%
	2021年	7,316	239	245	248	209	神奈川 8%
	2022年	8,339	241	250	237	212	青森 6%
すいか	5ヵ年平均	7,917	219	209	224	246	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
すいか	2023年見通し	8,400	237	250	240	220	
すいか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 山形を中心に、長野などから入荷する。主力の山形は前進傾向で、出荷量のピークは7月下旬。やや小玉傾向となる見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。 価格：前年並。</p>						

# 切花・鉢花の8月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 8月1日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2018年	2,185	62	
		2019年	1,885	57	
		2020年	2,021	52	
		2021年	2,008	59	
		2022年	2,110	64	
	5カ年平均	2,042	59		
	2023年見通し	2,100	60		
	概要	愛知、長野中心に入荷。上旬はお盆需要もあり、動きも良さそう。暑さの影響で盆明けに若干の切残しができそうで、下旬の販売は苦戦しそう。			
小 ぎ	実績	2018年	1,732	44	
		2019年	1,771	39	
		2020年	1,698	40	
		2021年	1,597	39	
		2022年	1,837	41	
	5カ年平均	1,727	41		
	2023年見通し	1,800	40		
	概要	愛知、長野、埼玉、岩手からの入荷。上旬は盆需要で動きは良い。暑さの影響で若干遅れ気味となっており、盆をまたぐ物もありそうで盆明けは苦しい販売が見込まれる。			
カー ネー ション	実績	2018年	1,451	49	
		2019年	1,391	41	
		2020年	1,193	43	
		2021年	1,027	44	
		2022年	1,197	59	
	5カ年平均	1,252	47		
	2023年見通し	1,150	54		
	概要	長野、輸入中心の入荷。やや前進傾向にあり、色のかたよりの波が多少でている。輸入品は前半の物日に集中させる動きがあるものの例年の7割程度の計画。			
か す み	実績	2018年	120	105	
		2019年	109	105	
		2020年	103	115	
		2021年	109	102	
		2022年	154	115	
	5カ年平均	119	109		
	2023年見通し	130	105		
	概要	福島、長野から入荷する。上旬は新植株のピークとなるため、各産地出荷は多い見込み。数量次第では厳しい販売となりそう。			



単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2018年	355	178	
		2019年	366	155	
		2020年	288	175	
		2021年	244	183	
		2022年	312	193	
	5カ年平均		313	176	
	2023年見通し		300	180	
概要	<p>オリエンタルは新潟、岐阜、北海道、埼玉からの入荷となる。やや前進気味となっているが、概ね順調な入荷が見込まれる。鉄砲は兵庫、愛媛からの入荷で、生育順調だが、愛媛産が作付減少している。LAは新潟、埼玉からの入荷となり、昨年並の入荷見込み。</p>				
洋らん	実績	2018年	532	82	
		2019年	417	89	
		2020年	317	94	
		2021年	294	110	
		2022年	331	129	
	5カ年平均		378	98	
	2023年見通し		300	130	
概要	<p>愛知、鹿児島、静岡などの国産に輸入品が入荷する。カトレアについては前月並みに入荷で、増加は9月に入ってからの見通し。コショウランは輸入品中心で微減。オンシジウムは上位等級のみで下位等級はほとんど入荷しない。デンファレは極端に少なく、回復が見通せない。</p>				
ばら	実績	2018年	557	60	
		2019年	486	53	
		2020年	451	53	
		2021年	398	58	
		2022年	607	64	
	5カ年平均		500	58	
	2023年見通し		500	60	
概要	<p>山形、長野、愛知、岐阜を中心に入荷。輸入品はケニア、エクアドル産の入荷始まり、株休めをしていた伊勢の入荷も始まる。国内産は丈の長いものが品薄傾向。</p>				
枝	実績	2018年	1,726	65	
		2019年	1,505	70	
		2020年	1,384	74	
		2021年	1,399	83	
		2022年	1,717	78	
	5カ年平均		1,546	74	
	2023年見通し		1,650	75	
概要	<p>昨年まで好調であったパンパスの注文も落ち着いてきた。特に穂出しの注文減少。花木は山間部でも気温が高すぎ、立ち枯れが起きていて、盆明け紅葉してくると一層の劣化が心配される。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	2018年	9, 7 5 8	9 2 6	
		2019年	1 0, 8 2 5	9 2 6	
		2020年	1 2, 6 1 1	9 0 5	
		2021年	1 0, 7 7 6	9 1 2	
		2022年	1 1, 7 2 2	9 8 9	
	5カ年平均		1 1, 1 3 8	9 3 2	
	2023年見通し		1 1, 0 0 0	9 5 0	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。気温が高いと色が抜ける可能性がある為、8月の出荷量が減るのが要因。4号～6号までの出荷がメインになる見込み。相場は、コロナバブルも弾けてしまい厳しいと思われる。</p> <p>前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(86.5%)、2位長崎(11.0%)、3位富山(1.0%)となっている。</p>				
シャ コ バ サ ボ テ ン	実 績	2018年	3, 4 2 1	4 1 1	
		2019年	5, 0 5 8	3 9 4	
		2020年	7, 3 8 7	3 8 8	
		2021年	6, 9 7 5	3 9 5	
		2022年	5, 2 9 8	4 5 0	
	5カ年平均		5, 6 2 8	4 0 5	
	2023年見通し		5, 2 0 0	4 5 0	
概要	<p>入荷量は前年並か。前年同様、3. 5号～5号の引き合いが強い見込み。今後の気温にもよるが、残暑が厳しいと販売が厳しくなる予想。</p> <p>前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(90.5%)、2位愛知(8.8%)となっている。</p>				
バラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	2018年	5, 3 2 4	1 2 3	
		2019年	4, 1 5 3	1 1 0	
		2020年	6, 0 7 5	1 1 9	
		2021年	2, 3 0 8	1 3 9	
		2022年	2, 0 0 3	1 7 2	
	5カ年平均		3, 9 7 3	1 2 6	
	2023年見通し		2, 0 0 0	1 5 0	
概要	<p>入荷量は継続的な生産調整等で、前年並かやや減少の見込み。前年同様、周年生産の産地である岐阜と愛媛を中心に3～3. 5号が中心となる見込み。今夏も気温が高いことが予想され販売は苦戦する見込みだが、出荷量の減少に伴い単価は安定すると予想される。</p> <p>前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛媛(52.7%)、2位岐阜(32.1%)、3位千葉(13.8%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシジウム	実績	2018年	1, 3 3 1	7 6 4	
		2019年	1, 0 9 2	5 9 7	
		2020年	1, 3 0 2	8 4 0	
		2021年	1, 3 2 8	6 9 2	
		2022年	1, 4 9 3	4 9 7	
	5ヵ年平均	1, 3 0 9	6 7 6		
	2023年見通し	1, 3 0 0	4 8 5		
概要	<p>入荷量は前年より減少か。生産サイドも高齢化と地域によっては、生産出来ないところが出ており相場低迷も伴い苦戦が予想されるので、固めの出荷を希望。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(73.7%)、2位高知(26.3%)となっている。</p>				
スパティファイラム	実績	2018年	1, 2 1 3	3 7 8	
		2019年	2, 4 2 0	2 9 6	
		2020年	2, 8 7 2	2 7 4	
		2021年	2, 2 7 7	5 0 3	
		2022年	1, 7 0 1	4 3 8	
	5ヵ年平均	2, 0 9 7	3 6 7		
	2023年見通し	1, 6 5 0	4 2 0		
概要	<p>入荷量は前年より減少か。生産量の減少・需要の減少に伴うのが要因。出荷のメインはケース物中心に、4号～6号がメインでの出荷と思われる。6号以上の生産が減少で、平均単価も下がると思われる。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重(37.4%)、2位愛知(32.3)、3位岐阜(24.9%)となっている。</p>				
ドラセナ	実績	2018年	1 4, 1 3 5	8 0 8	
		2019年	1 4, 2 1 6	6 8 7	
		2020年	1 9, 8 2 4	8 3 2	
		2021年	1 6, 3 9 6	1, 1 6 5	
		2022年	1 4, 7 8 0	1, 0 2 2	
	5ヵ年平均	1 5, 8 7 0	9 0 6		
	2023年見通し	1 4, 5 0 0	1, 0 0 0		
概要	<p>入荷量は前年より減少か。原木類、輸送コストの高騰により値上げを余儀なくされている。特にコンシンネ、レモンライムなど原木価格がかなり高騰しており、流通価格によっては今後の継続も危ぶまれる。ユッカ、マッサン等は前年並での見込み。6号未満に関しては品薄状態になる。 前年8月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(62.4%)、2位沖縄(8.5%)、3位三重(8.4%)となっている。</p>				



## いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.602  
2023年8月発行  
農業水産局農政部食育消費流通課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6434